

# 機能性表示食品の「ミシマガチトマト」 最先端の灌水で

【静岡支局】「AOIプロジェクト」を通じて、さまざまな人や技術に出会い、高品質で高機能なトマト栽培を実現した」と話すのは、三島市のSATO FARM(サトウファーム)代表・佐藤光さん(34)。JAふじ伊豆のブランドトマトで、機能性表示食品を取得している「ミシマガチトマト」のほか、中玉トマトやカラフルトマトなどのトマト約19種を栽培する。

## 佐藤 光さん 静岡県三島市

### 県出資研究事業に 生産者として参画

県が全額出資する一般社団法人AOI機構が運営し、研究機関、企業・団体、農業生産者など300以上の会員から成る「AOIフオーラム」に参加する佐藤さん。最先端科学技術の研究成果を栽培現場で実証するための「AOIプロジェクト」にJAふじ伊豆の生産者として参画した。AOIプロジェクトで県農林技術研究所が技術開発し、山本電機株式会社が製品化した灌水装置「うるおい力持ち」を、実証事業から引き続き使用して栽培する。「うるおい力持ち」は、リアルタイムで株を重量計測し、計測結果に基づいて、水と肥料を自動的に供給する。佐藤さんは「高機能で高品質なトマト作りには、水と肥料を正しい量とタイミングで与えることが

トマトの生育状況を確認する佐藤さん



## リアルタイムで株重量計測 結果基に液肥を自動供給

重要。この仕組みで熟練の技術を自動化し、省力化と品質向上が両立できる」と話す。

### GABAが2倍に

この栽培方法で「仕事や勉強による一時的な精神的ストレスや疲労感を緩和」することが報告されているGABAの含有量が、慣行栽培トマトの約2倍となる。AOIプロジェクトで確認された。ミシマガチトマトとして商品化され、GABAについても目

立つよう包装に表示する。2024年には県の「しずおか食セレクション」「真」に認定された。SATO FARMのローガンとして「美味しさを真面目に考える」を掲げ「おいしさとともに、安全・安心な商品を消費者に届けたい」と話す佐藤さん。県の「しずおか農林水産物認証制度」や「ふじのくにSDGs生産者認証」「JGAP」などさまざまな第三者認証を取得する。大学を卒業後、トマト農

(佐藤)



佐藤さんが生産するミシマガチトマト